

ヘッドスパ 近大生と開発

理容組合 経営改善へ

専門店参考 中高年へPR

県内の理容店でつくる県理容生活衛生同業組合（奈良市、314店）に加盟する10店舗は、近畿大の学生と共同開発した男性向けヘッドスパの提供を始めた。利用客の減少が続き、経営改善の起爆剤を求める組合側が、近大に依頼して実現。人気を集める専門店のサービスを参考に、毛穴の汚れ取りとリラククス効果を追求したという。

（岸本英樹）

サービスは約10分間、顧客に、寝かせた状態のいすに横たわってもらい、化粧水を含んだコットンで目を

カバー（約10分間、顧客に、寝かせた状態のいすに横たわってもらい、化粧水を含んだコットンで目を

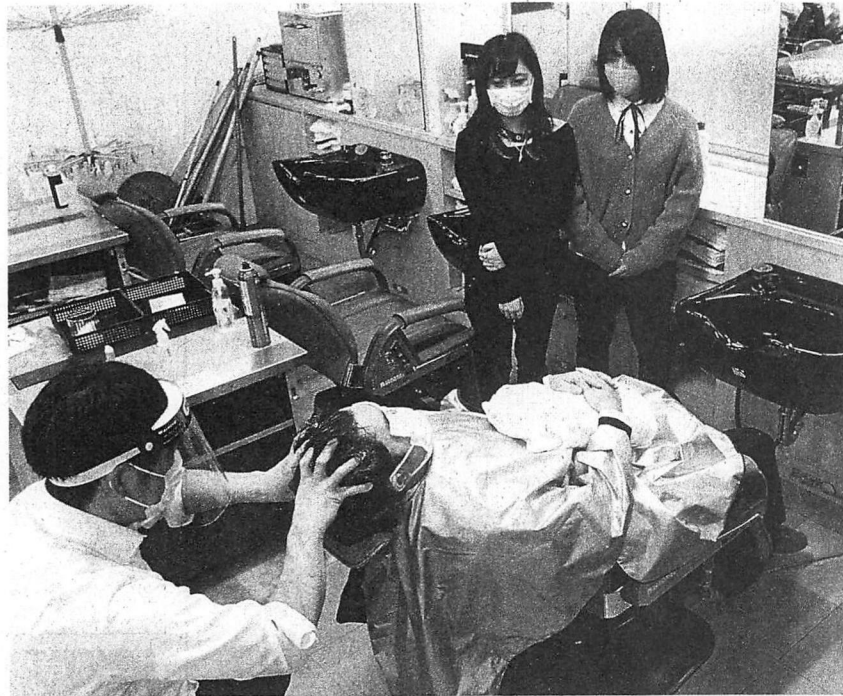
カバー（約10分間、顧客に、寝かせた状態のいすに横たわってもらい、化粧水を含んだコットンで目を

カバー（約10分間、顧客に、寝かせた状態のいすに横たわってもらい、化粧水を含んだコットンで目を

カバー（約10分間、顧客に、寝かせた状態のいすに横たわってもらい、化粧水を含んだコットンで目を

カバー（約10分間、顧客に、寝かせた状態のいすに横たわってもらい、化粧水を含んだコットンで目を

カバー（約10分間、顧客に、寝かせた状態のいすに横たわってもらい、化粧水を含んだコットンで目を



近畿大生（奥）の立ち会いの下、ヘッドスパを披露する県理容生活衛生同業組合の関係者（奈良市で）

経営改善のため、ヘッドスパを取り入れている理容店も多いが、1〜2割程度の顧客にしか利用されていないのが実情だという。

このため、昨年夏、以前から組合に協力してもらっている近大経営学部の中谷常二教授のゼミに新サービスの開発を依頼。中谷教授も「理容店は家族経営が多く業績が悪化しても経営改

革が起ころうと心配した。開発には学生17人が参加し、半年がかりで開発を進め、散髪に来た常連客の中、中高年男性が、追加で頼みたくなるサービスを目指した。人気のヘッドスパ専門店にも足を運び、理容店の現状と比較して改善を重ねた。どの店でも同じサービスが受けられるように、細かい手順を定めたマニュアルを作成したほか、店内のテレビなどで見られる販促用の動画も作った。

開発に参加した4年の西美優さん（21）は「どの客層に照準を絞るかなど試行錯誤だったが、いいサービスができた」と手応えを語った。

組合の今西正樹青年部長（44）は「理容店ではいすを倒したり、シャワーを使えたりでき、専門店と比べても強みになる。ほかの都道府県の組合からも問い合わせがあり、全国の理容業界を救うサービスになれば」と期待する。

利用できる店舗はホームページ（<http://sigelicoda.project.web.fc2.com/suzakutop.html>）で確認できる。